

遠13
2209
16



門 遠 13 符
番 2209
卷 16

豊臣巴二編六之卷

繪本豊臣勲功記二編六之卷

目録

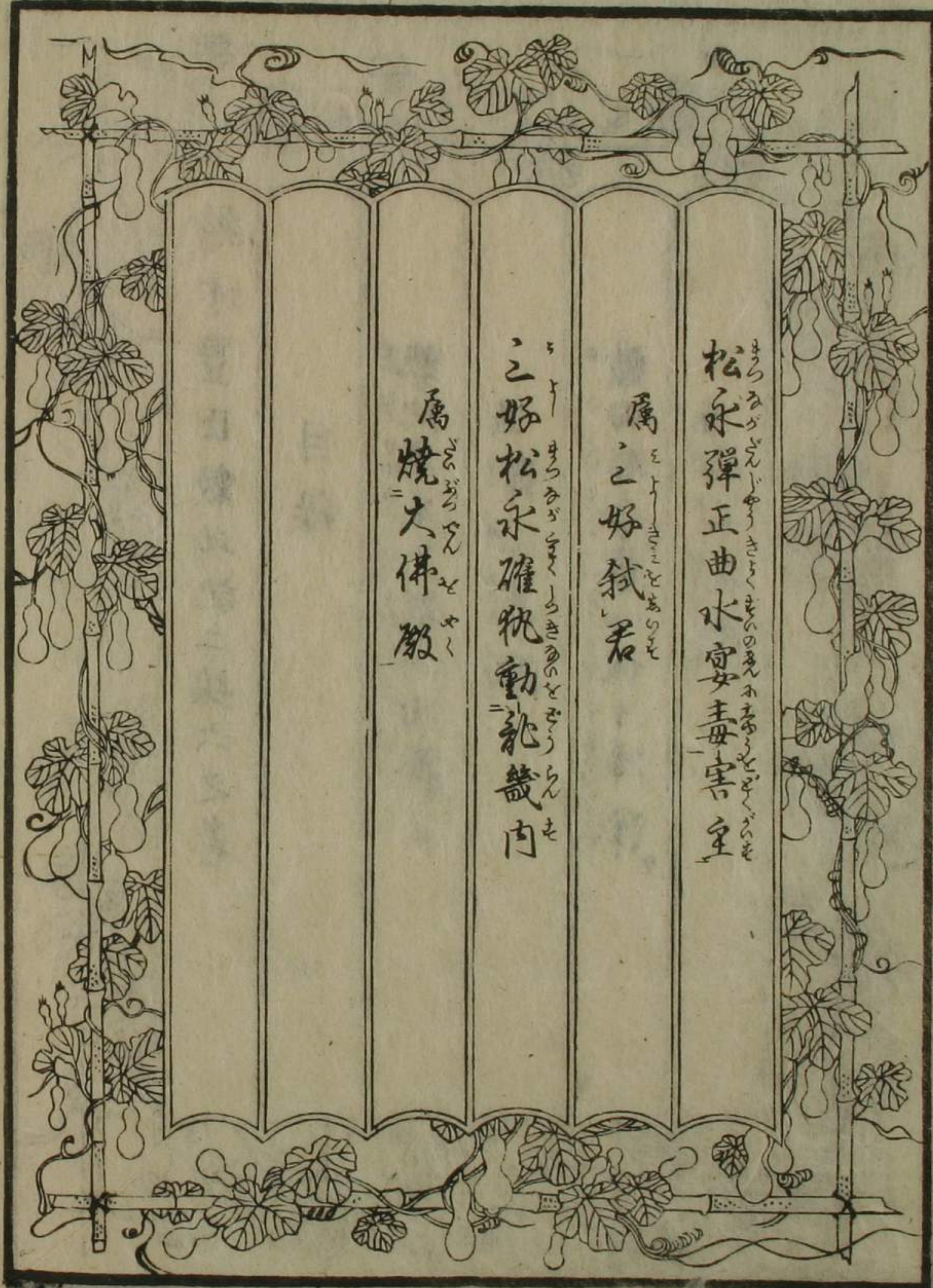
北攻木下親山活彈正

屬彈心真降

織田殿令勢山城々降降

屬攻阜還所





松永彈正曲水宴毒害室

属之好弒君

之好松永確執動龍畿内

属焼大佛殿

繪本豊臣勲功記二編卷之六

江戸 八功舎 徳水刑補

勢北攻本下統山路彈正 属 彈正真降



来仁中く親と遺りののあらじ。いそいで義ふしてこそ君を後おさるののあらじ。
忠孝仁義難とてんバ天神いぞうそく人として守らざらんや。然バ本下信吉守入
水縁元来の秋小く細て織田殿おはへまわらせ。忠信孝義を継く守り姑
も道小背うごとく。弟小事を討しよ。自然と立身出取て十哲余も本下信長
と尾濃二列のまこと。急らせ。その身ハ別股の城をとりて。四郡の税担小様せらる。
まも申信考。我がの法とて。後宣るる。然らば。水縁十来も。既小意。明色ハ
同十来。後為春。を逐下。ころ。然らば。後田殿。おゆる。来。機別。小出。馬。あ。し。ご。ゆ。り
利。さ。して。帰。國。ころ。多。山。路。が。信。降。と。情。り。弟。巧。小。信。成。と。り。し。と。本。下。が。諫。小。や。む。事。を

得て出馬と見追延引せしが既小今春も春深く軍を調練も満足しつり速小
 出陣す言岡神戸の城と一時小陣くをぬる春の學と云うんと評定の席と
 詔ありきし小本中進出く言はれらく春深く岡の陣を圍し既小改換りすと
 べれ山路が降参を願ふよりくを修河陣陣ありしに渠係君一の術と云ふと
 是の遠道の小出陣は罪と責らるるは十を軍小理ありこの事も云ふ
 岡一使者を遣へし降参延引の義を以て是を後河出馬あらせらるる一郭の如
 くありて駒の君の通理の如く強く且寛仁の河出馬ありし彼國人候のつら山
 路陣正の術を思ひ心も出来りく君は是も小陣ありし招きよこし來し
 河使者山路小利解を関せ渠係係仕のつら山路のつら山路のつら山路のつら山路
 へらら圍の城を下し信とと雲と小徳田殿同ト至ひしは使者とつら山路
 山路が近きと云ふは是を禮の挨拶のつら山路のつら山路のつら山路のつら山路

行時も猶縁をせと疾推進く臨つるを同車二月物八日辰巳と出軍あ
 らせらる河引尾引の軍勢小乙甲の加増と都念を四百金勢とを所へる威
 風の山林の樹を枯れ親氣の虚空の雲を降と射るは鼻の城より來るを
 十二の里を河小軍を呼と續くを九日の午におる頃素名小陣ありし
 ころが能川を去りて河の城申河陣と居らるは徳軍勢の中陣小陣ありし
 ありは能川を去りて河の城申河陣と居らるは徳軍勢の中陣小陣ありし
 なるもどる岡神戸八田おの此も怖ます軍陣を推参東ら目小陣ありし
 せんとも能川を去りて河の城申河陣と居らるは徳軍勢の中陣小陣ありし
 高岡を攻落し河引尾引の軍勢小乙甲の加増と都念を四百金勢とを所へる威
 風を去りて河の城申河陣と居らるは徳軍勢の中陣小陣ありし
 至らん為能川を去りて河の城申河陣と居らるは徳軍勢の中陣小陣ありし



豊臣記 一編 卷之六



豊臣記 一編 卷之六

織田殿の
大軍勢
発向
行伍の圖

攻入事ハ君法河成先為小使ヲ渠依如きの少人ハ河計ひて真寔ニ陣
 巻とて信長仁義と云ふを以て敵遭練めおらせまぶ軍勢と云
 一々諸所の城を攻めお見せむ。是ハ小方の國人依て支拂させ給へ
 降参させん謀計あり。是ハ部部の城を八田安濃津細野の城神戶の國華
 鹿伏鬼國有と云向ふ外五百騎と百騎或ハ千騎と追小野も山
 小も透回あり申。繫ぎく小隊伍と云。諸城一時おせお起て忽地臨之然
 小で目せたる然く村々法紳士々々使せり。利解せ所せ仁義と親と扱
 きたれハ千種守野赤地稲生の伯士候ももくと降参して赤名の本陣小乗上し
 魁軍小加らんと望むも六蔵田殿渠候と厚く款待懇勸おせらる。國人の
 も感伏して所々小將と大將と次々と小留傳へ國傳へて今も降人七と
 過とも六穿城殊お心やそく。便宜もあつと懼怖と懐も公戦と云ふ心なり。

今河列帳平
 村より千草
 旗小出千
 並村あり
 州郡あり

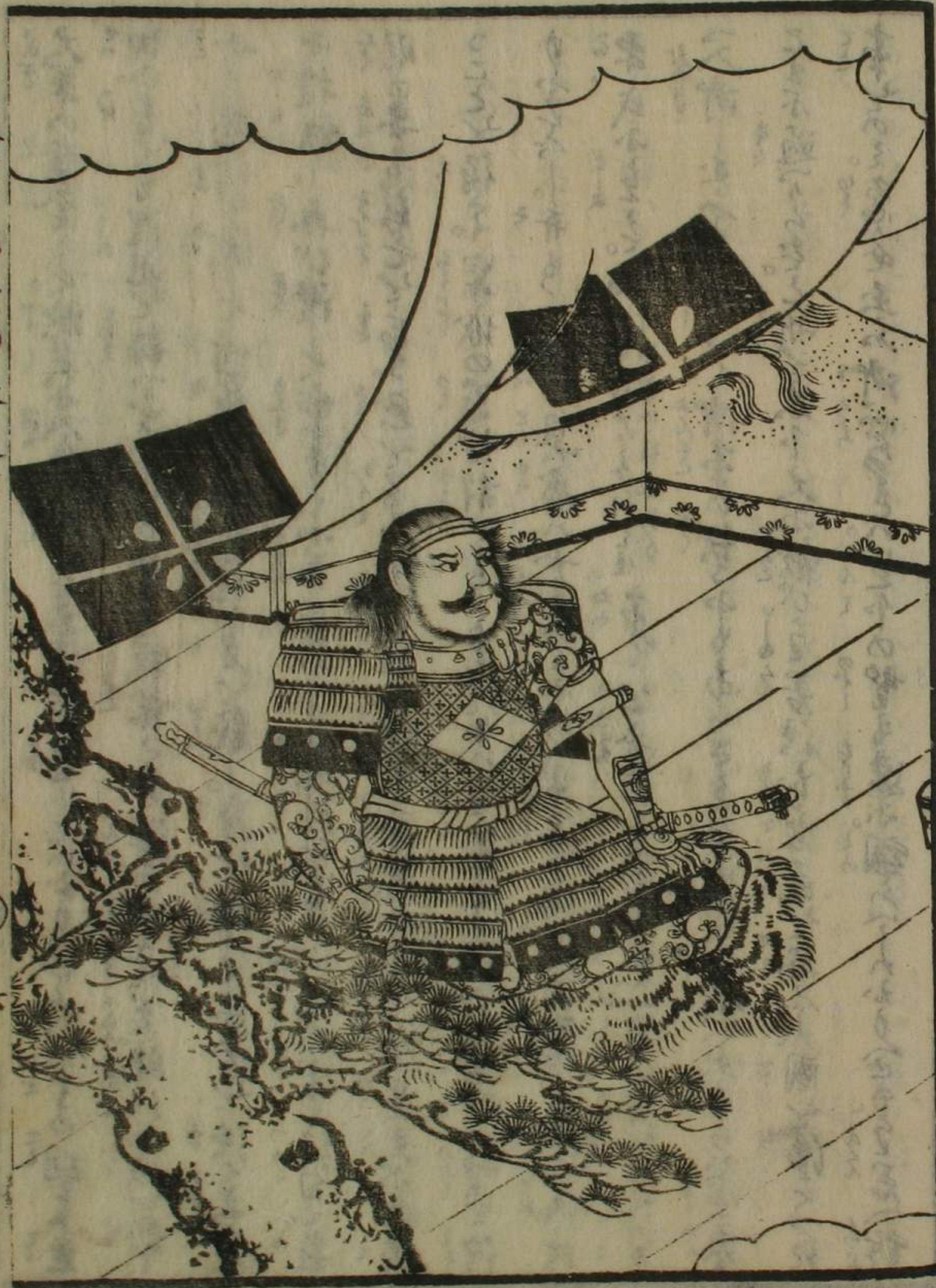
赤へ加治田稻田橋本中津密意と兼敵の陣中へ紛投流言と謂々あり。
 近江の依て本之浦殿信長小侍もも加勢の軍を操り。既小千種
 色もも出陣ありしと言觸らる。つづこの城々も圍入り。あまが小將率と
 今ハ河津の仕部も志を惘然とて居り。然しこのも織田殿の軍を
 くく指揮ありし。是の進軍も攻めこころらる。遠巻くとて暇合
 諸所の城も退屋し。体あり。本中津密と初めおらせ今こそ禰の計
 行ふ時并川集と一候。小居使并と被り。山崎陣正と親善のふさん君の
 河津陣と云圖小移と云。河成先と云と云。信長と云。許と云。
 本中津下へ僅小後者と云人か。果。言は法城。案内せり。然しに信長
 本中津有餘強小く城の四方を圍。只今一歩小攻。後を禰威と云。と云。
 まじく。然とも城申更小屋せ。い。心死と覺。初。待居らる。と云。

本下藤吉舟秀吉城門近く歩み倚安内せしむ。彈正面圓の寒橋小登
 城門外七觀却せ六織田の大軍ハ推進し進も遠の麓小指居て僅小入
 の雲せむ具。使者の報ぬる。短漢を離小勝むむ。彈正心小思ふ。後
 令鬼神の勇ありとも。僅小入後入あり。何条怖る事あり。使者と
 関て對面せむも。信さる小似らうと。寒圍て用て使者を呼寄奉丸小通
 たり。本下僅くと登來り。山路を歩小別進も。彈正軍小禮せむ。本下は笑
 て座小登り。山路こまき見へる。海に織田の使ありと。何の為小此
 小來り。何と云ふ。言を告せむ。誰か。此の事。秀吉我々大國の使并小
 くと當城中の老意小通り。若む事と救えん。何得入來り。此れは收
 禮と。招信。誰か。言を告せむ。我を侮り。禮せ起さる。何
 事ぞ。言ふ。小と禮あり。何高歡小む。と。謂り。歌。自軍と。此の事。

武士の品位小後々區々小禮あり。めを彈正自己が剛氣小禮り。大國たる
 こととして。自國として。自家を愛ひ。民の生命を顧み。城壁の徳小礼けり。
 この道を知り。と。又。人言。吾も。此の道。彈正。猶も。我意を折る。我信。長小不
 信。さる。此の致。禮と。此の言。謂と。知らる。信長。自軍。小來り。此の事。渠が。願と。下を。入
 我も。願と。下を。さ。況や。海に。居り。あら。と。我小對し。言。り。の。ふ。あ。ら。を。勇
 士の。軍。隊。を。响。の。家。を。愛。ひ。身。を。懸。と。言。ふ。期。を。あ。り。因。り。百。計。の。換
 だ。ら。と。進。ま。ら。ぬ。あ。ら。と。言。ふ。事。も。合。戦。の。あ。ら。ひ。懸。止。し。無。さ。れ。海。賢。げ。小。城。中
 の。老。意。と。救。ふ。あ。ん。と。言。ふ。事。の。詞。を。昔。と。傳。頌。不。當。の。事。あり。只。其。の。外。使
 者。あり。自。身。の。死。を。受。ぬ。ら。ほ。く。此。と。言。ふ。事。を。一。に。釋。素。張。儀。の。辨。あり。こと。を。こ
 我心。と。動。し。得。ん。や。と。言。語。然。り。言。ふ。事。を。本。下。更。小。怒。と。受。ふ。と。言。ふ。事。を。海
 ごと。侍。と。切。不。許。との。事。も。あ。ら。ぬ。強。く。降。参。を。初。め。せ。り。と。言。ふ。事。を。戰。つ。

死にバ心の随ふ死ねようし我君臣長の奉意する人多くは百程罪多くて戦
 場の殺ふ苦りゆり目誘死鬼小勾引まて死業小死するぞ懸るもあへ
 軍を盡し去らるる仁義程信ひとも缺けど汝所うぞや兵濃の飛鳥
 渠をこそ道ぞ尋せん軍を當面もひも民一人も罪しぬるも是れ
 憐れもあまひ小籠具終小民小毒らるる自國を是く他國せりる病
 の諸侍士悉く徹回小從仕して遠陣中もあつし是れも是れは臆病の武士
 少くあらむ自己が勇氣を賣らんが為小非理小戦死しつるぞ難うはこそ
 稱ふとくけん方後算めく謂ゆあらねど是月北高殿とても汝が是れ親由代
 せ。懸願のう人とのいふあらむ神戶を獲小止さく。勢を家城止し小甲の
 ぞは汝一個死と好とも神戶が心をもむるまじ渠は船石の絶る程は是嘗
 怖ひあつしは汝もよく神戶をもとせんといふつるぞや汝が心は尚も休む

為と懐ふも死見の仇と懐ふも執心小同じ心小知つる。遠義ハ神戶の
 ろらむ事鹿伏苑因角安濃津扱山の城を都てさか多勢と遣へ搦
 圍をよび攻臨さん易いも是も夥くの民を益あつて歸さん事の不便小
 と日にも軍を辭さる是れは徹回殿の仁懸信義せり知さる。汝を
 當國名譽の士中と懸も心懸の遠味もは汝小獲る人もあるまじ懸る
 まは汝が家國も稱小汝が一族も安泰小汝が民百姓も喜ぶ道理せりも捨て
 家國を亡へ族を絶る。民百姓の困むと執とまは汝が心は虎狼とや
 謂さん鬼魅とや謂さん惜うを言小汝が族の家世相傳の名家あるぞ懸小
 断絶せしゆん事も目又相續せしゆん事も昔小汝が心小あは我君臣と懐
 こふは死道の軍ハあるてぬと。是非もあは別より。汝が末の加勢既小
 境をく出張せし。治神あまは家の軍勢被見すも余小及つ。勢



豊臣巴二番



秀吉ひでよしの城しろを投なぐ
尊岡たかしの城しろを投なぐ
山路やまぢ彈たま止とと説せつ

豊臣巴二番

大軍の奮發を以て炮矢小入名を落すと事。猶小悲しと云ふの如く、初めの如き也。
 切ふ若くも理絶を辨つて。給ふ事と親縁なき。彈正心は悔更。膝小減と判り
 如く。臨陣と流々所居より。惣地小入と敵。度と謀りて。秀吉と強くと所
 小指詰し。再び渡りて。東より。小信忠より。道理小言く。一端の勇小強自て。家
 國の安危存亡と忘る。然と是下の情導小頼く。再像雲雲。頭小曼夫小且。親
 うことと得る。穿城の罪と解さる。なとん小入。自心の中。望と流
 りふと。并も。神戸具盛ハ女子の。小く。男子。織田殿も。同一流。流
 衆氏小入と。織田國神戸。新と後。多く。公達。そのうち。一方の公。と流。流
 入。河。玉。も。當。河。事。の。鉄。小。も。あ。ら。さ。る。道。義。を。傳。へ。至。ら。ば。廣。恩。
 こ。も。不。過。く。ら。と。所。て。本。下。大。小。鉄。び。之。若。法。か。忠。民。を。安。ん。下。國。を。治。め。つ。れ
 事。を。の。急。を。至。ら。河。心。の。望。も。連。小。調。へ。い。れ。お。り。せ。よ。と。云。ふ。新

この後から。大軍と進軍あり。一。端。本。陣。へ。ち。近。り。候。を。由。と。謀。ら。れ。下。り。と。て。
 退。進。さ。り。と。彈。正。を。下。め。穿。城。の。諸。士。悉。く。城。門。際。を。送。り。來。り。禮。義。を。あ
 つ。か。り。く。様。の。令。朝。小。参。り。て。意。味。し。備。本。下。の。本。陣。小。近。り。山。路。が。心。中。鉄
 も。な。く。詳。小。言。仕。し。ま。は。信。長。小。も。喜。悅。す。と。右。小。た。た。り。小。計。り。と。と
 命。を。小。秀。吉。と。落。び。入。城。と。山。路。小。逢。河。事。の。大。既。首。尾。朝。り。神。戶。心
 中。決。着。し。て。后。心。主。小。り。や。定。む。と。然。び。是。下。が。自。身。小。て。神。戶。の。城。へ。引。込。ん。だ。
 事。連。小。調。へ。ま。じ。登。り。具。盛。が。辭。へ。至。り。遠。事。と。く。調。へ。せ。藏。人。を。七。信。長
 の。陣。へ。向。せ。ら。り。や。う。小。執。量。ま。と。と。向。き。と。小。下。り。彈。正。大。小。悅。起。小。信。誠。心。を。恐
 しく。降。参。の。せ。し。を。證。小。遠。城。と。て。是。下。小。信。忠。然。と。神。戶。へ。報。り。と。云。岡
 城。と。本。下。小。進。兵。後。者。五。六。騎。と。率。具。と。て。神。戶。と。こ。を。出。小。る。是

織田殿令北城を降降属 改車還軍

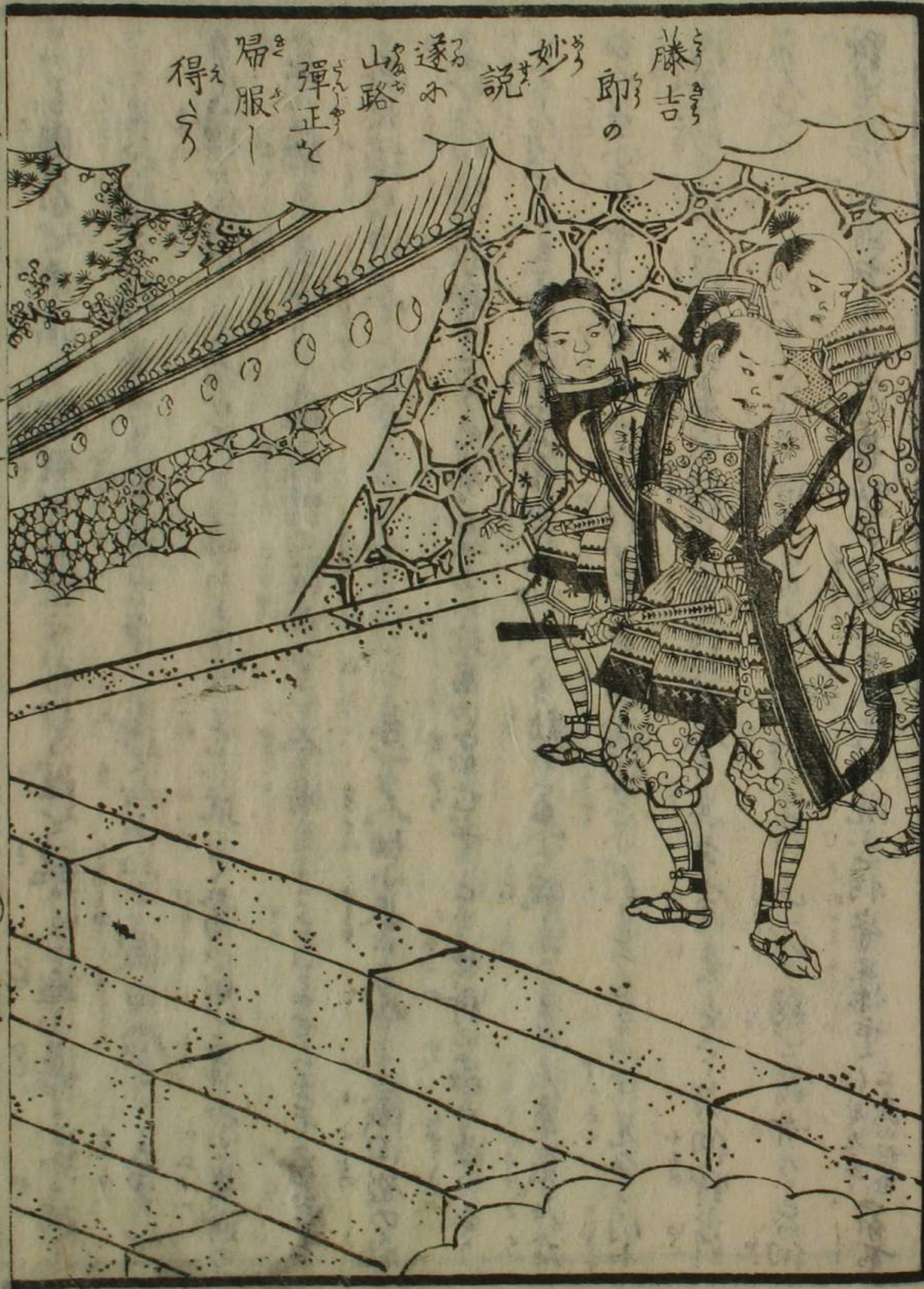
山路險峻。別の登りも苦しく。下も困。敵を別々の攻るも難く降をも
 逃し。然るに秀吉一語を以て。後石心ある山路を降。賸を以て用ひて。勢北
 七ヶ分を休せし事。天神精霊も及ばざる。然らず。山路。彈正信登の神戶人
 也。同心を以て。破城門。小引し。と。衆人驚き。迎きて。来り。縁故を以て。小彈
 正も。名。小。あ。謀。する。事。本。下。分。説。命。の。事。お。く。と。理。化。を。明。小。演。り。次。小。彈。正
 の。家。督。と。同。氏。同。流。の。織。田。家。より。迎。え。ま。し。と。説。く。小。具。盛。異。儀。み。く
 同心。を。彈。正。直。地。小。立。降。り。秀。吉。小。斯。と。報。し。後。吉。亦。小。隨。て。信。長。の。本。陣。へ
 糸。向。を。織。田。殿。山路。小。對。面。あり。と。方。國。家。の。こ。め。せ。り。前。神。を。も。り。一。切
 けて。合。神。の。好。と。結。を。な。り。條。最。神。妙。の。至。り。儀。を。も。り。小。彈。正。と。平。の。同。ト。平
 氏。の。後。亂。を。ま。さ。ぶ。之。男。と。り。て。小。彈。正。遠。く。父。子。の。約。を。堅。く。朝。ら。せ。承。く。一。家。の。縁
 と。結。ぶ。ん。這。事。小。於。之。別。使。と。遣。ん。小。其。方。官。一。く。枕。持。ぐ。と。い。と。小。彈。正。命。を。さ。る

彈正まをく。護。で。ま。ぬ。る。事。の。不。義。せ。き。と。折。免。と。ま。さ。き。作。簿。算。を。の。意。と。お
 せ。ま。小。勿。作。り。や。ま。折。懸。命。生。し。世。く。ま。を。忘。れ。ざ。し。と。頓。首。一。と。言。は。し。ま。る。
 右。左。小。織。田。殿。使。者。と。り。て。神。戶。の。城。へ。遣。し。ま。さ。ぶ。危。人。と。ま。小。同。道。一。と。高
 岡。の。本。陣。小。交。し。せ。り。彈。正。亦。出。迎。ひ。て。神。戶。を。伴。ひ。河。原。小。出。れ。信。長。初
 對。面。の。式。可。寧。小。ま。ら。令。せ。ら。ま。さ。る。や。う。の。遠。遭。當。國。へ。出。馬。せ。し。事。今。く。他。の
 領。土。を。國。を。侵。奪。せん。との。義。あり。と。信。長。氏。は。賊。は。小。破。せ。老。弱。と。一。く。飢。渴
 小。困。し。と。初。雅。と。一。く。失。意。育。小。煙。ふ。と。ま。信。長。の。縁。を。添。く。懸。を。ま。さ。し。謀。を。以。て。前。攻。せ
 じ。と。幸。く。責。せ。若。く。豫。せ。正。道。を。ら。ぬ。と。救。せん。為。り。唯。平。念。願。を。さ。る。右。ハ。大。ト
 右。平。と。信。長。の。事。あり。と。ま。方。の。當。國。を。双。の。勇。士。小。と。先。祖。と。思。は。る。家。と。の。心。し
 さ。は。ん。身。を。あ。り。の。と。今。ま。ま。を。味。を。な。り。も。戰。國。の。世。と。是。能。か。死。事。あり。彈
 正。許。り。所。つ。ま。亦。亦。信。長。の。亂。子。こ。ま。り。死。し。不。る。と。り。て。亦。亦。と。さ。る。然。ら。ん。あ

因り平氏とのひさぞ田原代の婿也。心易くありひ玉うらめふより心を置こみひ
ぞいふに仁澤の命を所具盛心中大敵びくもも河後重隆。遠より我
一族を城を傾け招んきて安國府鹿伏鬼等と頼とてそ外不縁の侍士
軍也。遠地地取り呼込へ織田殿の仁義を語りたる小のづきも遠地同心。打
透る。信長の本陣小糸向へ帷幕の下小祇儀あり。指揮を奉んと習
たる由へ公士を更小動うさせ城小九分を降伏させたる。小飛鳥の城を國安
義も盛信ハ神宮盛澄親徳の長女の誓ひまの具盛との親友中なる小登
信後兼江別の蒲生と角と睦らまは具盛が勧め所寄を勇小請へ織田
と授んぞ。花人も又ハ頼りて。信長小初と寄伏を恐らば大軍小攻つ
小やと木下小回せしめふと。吾も遠くらす幕下小降し時節は渠を任
國を安濃郡と采らげ玉へと動かし織田殿同玉ひ遠連障りし國人を以て隊と

△安法保ハ
今世人と
伊勢の味と
呼ぶる

一と二千余人安濃津さく推進す。丹も遠城を長野とのふハ藤原と。諸
徑の後亂あり。應仁已来國司小属を當と。長野次郎具孫ハ國司具教の二
男ありと。長野孫定と子とて家督とつと。性質弱く馬の道小疎
りりま。諸士達とて重んず。居下の心區々あり。遠連信長大軍小
勢北の地と過半采らげ方僅ま。當城小推進と。軍ハなきを動と。ま
遠响秀吉山崎と呼。俟謀と。渡りま。弾心と。兼所朋友あり。分
左系亮政壽が許小引。此政壽とりつ。人の長野の一族細野九郎有重。川小
内通物。依りあり。分於山崎と。昔より。懇切あり。由。由地小遠。末意と
同。藤原と。藤進へ。信長當國小伐。投も決と。果。逢礼始と。民と。嫌。三虎
と。等。理と。金や。道小宵。と。共。用。ゆ。事。鬼。津。の。像。こ。ま。と。敵。と。一。と。
戦ふも勝つ。道。理。更。小。し。極。家。も。初。ハ。進。と。ひ。け。け。戦。死。と。覺。せ。し



豊臣記二編卷之六

十一



豊臣記二編卷之六

十二

ども國家と平治一百姓と安穩とらむ理と説く。遂小幕下小属一
 う。是小信く信長も御誅なき恩と加ふ。徹田殿より。二男と
 れて神と祈へ。養子にして送らまう。是小比々當家と思ふ。小長野の
 家の藤系氏也。工系保治の後亂也。今國司より。まをせらまう。家督を
 まつ。縁故也。今亡びんとまう。小當の子息と大切小養子と。織田殿の亂
 子と請待家督と。守達も北高の家亡び。とも長野の家ハ長久より
 只下得心。まきあり。六家の兄。川也。も初め。まきと説ふ。まきと。大系免。左
 め。是小同意。一。家。何人も。説せん。と。山路。保正。小別。まき。も。ま。申見。川。水
 内通助。許。小。別。也。此事と。説ら。ひ。ま。に。此。人も。異。も。同意。と。ま。ま。細。野。小。別
 らん。ま。ま。長。野。川。水。の。連。伴。九。郎。右。衛。門。許。小。別。也。山路。保。正。謂。許。小。別。也。細
 野。も。聽。て。一。通。也。一。此外。長。野。の。一。族。也。雲。林。院。出。羽。守。保。重。細。野。九。郎。右。衛。門。保。重。

之海守 安徳親家 軍生 武部 庫頭 同 中尾内藏
 助 安徳親家 遠依の門と合神也。山路が許へ。雲内と。織田殿小保。錫を。運。駒
 分。野。川。水。保。重。野。の。家。督。を。請。ま。ま。信。長。親。也。を。頼。け。ま。ま。不。ま。ま。ま。ま。

神妙あり。然るが。神を。ま。ま。ま。ま。異。也。初。推。の。者。小。小。計。ひ。ま。ま。ま。ま。

べ。ま。ま。ま。ま。信。包。武。部。子。信。の。を。存。出。一。分。野。川。水。保。重。を。長。野。家。督。

事。を。計。ら。せ。ら。然。れ。ど。小。長。野。次。守。具。原。素。桑。の。性。也。安。徳。親。家。の
 城。小。端。う。ね。父。也。國。司。許。逃。去。て。悼。ふ。も。か。れ。小。信。と。守。村。小。信。也。遠。也
 之。若。と。中。長。野。之。子。信。と。稱。く。ま。ま。ま。野。水。保。重。と。ま。ま。ま。

城。之。國。安。徳。親。也。感。信。一。家。一。族。小。比。離。也。言。僕。ハ。河。別。之。角。系。保。治。親
 已。之。加。保。の。事。也。か。り。ひ。ま。ま。ま。小。頑。く。本。下。を。謀。り。て。權。次。實。業。を。運。送。さ。れ。河。別
 加。保。の。さ。ま。小。見。せ。ら。本。地。野。川。水。原。野。を。ま。ま。ま。一。族。當。標。を。推。ま。ま。推

進^イ歩^キを^モ見^ルせ^りたる^所の^得の^國も^ここ^を見^て心^徳せ^り機^會から^小山^臨陣^ヲ
 正^シ木^下計^議を^受て^飛山^小の^守を^就彼^らに^遂小^降人^ヲ
 小^ぞ出^さる^る然^る小^今八^田城^の捕^正具^只一^人を^遣さ^せて^守城^せし^る
 本^下の^方便^しき^も捕^一向^所を^國司^の命^にお^かし^て用^城向^をお^ひわ
 ち^らせ^と詞^活を^把も^近き^を信^長人^小怒^らせ^しめ^しひ^唯一^接小^據托^せと^指揮^を
 一^た多^く本^下誦^め遠^遣勢^小を^とて^道理^を説^て降^伏を^命ず^る小^人を
 殘^さり^し小^捕入^降來^せと^て渠^を取^殺し^て至^らん^の計^取も^空
 う^らん^渠一^人を^棄置^てと^形量^の事^を過^察し^て國^司の^落を^小隨^ふ
 て^遂小^降來^せと^たり^の者^又直^也小^勢南^を車^均人^とい^はれ^ると^いふ^もど
 一^緒小^征伐^しし^一應^濟陣^國あり^て後^をと^づと^勅め^して^信長^を
 小^隨ひ^しる^小瀧^川に^近一^營を^據列^の總^{奉行}と^せら^して^之月^申旬^の草^の

城(一)で還(二)り

松^平彈^正曲^水宴^毒害^主屬^之好^執石^也
 某^之國^其君^を殺^する^者の^心十^之九^の家^小あり^て十^之九^の國^之君^を殺^す
 者^の心^百之^九の^家小^{あり}者^も義^を後^に利^を先^にと^るの^策を^とり^て
 厭^食と^して^語を^結白^すて^小強^小松^平保^が事^小を^あり^しり^て并^して^利
 口^の連^綿と^して^二百^十有^余年^相續^をて^いふ^も今^小余^を靜^謐と^して^者
 然^る小^近年^管領^細川^の家^居河^波の^國の^任人^之好^修理^を又^長慶^とし^て者^の
 陪^居中^之公^方家^小を^信機^既小^五歲^内を^傾け^し人^細川^の家^が如^く利^を
 長^慶今^年也^{將軍}家^所相^俤衆^小強^進政^道を^執行^して^公の^時と^いふ^小
 權^威を^放ち^て公^方を^輕蔑^して^遂小^將軍^とを^構は^して^利權^代の^大
 名^を家^所と^して^立ち^あが^り勢^力微^小將軍^家を^補佐^すと^する^こと^{あり}

△松平久秀
武の格別
正徳の位
の末は
四小松
山の足
久秀の
将軍の
久秀の
久秀の
久秀の

とを又威嚇せたり。藤の自國の合戦小隙多し。馳上ること偏ひざり。是を得る時と喜び。好長慶當將軍と追落しをまつ。羽波の沖新より。軍を將軍小せん相謀る。こを速く者なき。天文十八年六月廿八日將軍義晴公に別定を。一應を。こを小信て。好長慶又小軍とかく。こに隨小料理が當時の好の執事。織小松永弾正久秀と。は者あり。原西園の土氏。或の天和。多勢。山。生。こ。年。正。七。年。平。井。武。藏。好。諸。國。巡。小。卒。と。り。て。之。好。家。小。は。武。勇。小。博。く。智。見。隨。々。賢。々。六。段。功。勞。あり。小。周。一。書。の。將。と。あり。と。長。慶。公。督。と。續。小。既。々。之。好。家。の。執。事。と。せ。こ。程。と。あら。之。才。て。遠。小。和。列。の。守。護。小。取。り。多。門。の。城。小。大。和。國。年。好。長。信。之。權。小。公。儀。の。政。道。也。料理と。ふ。あり。小。あり。好。小。傾。多。車。馬。の。食。こ。は。門。前。小。市。と。あ。を。然。不。ど。小。義。公。に。別。定。の。山。中。小。在。と。漸。降。洛。の。討。滅。と。お。が。され。お。不。

斗河病悩。は。久。姑。河。沙。治。も。止。ぬ。中。漸。々。小。河。恒。帝。主。ら。せ。之。分。以。天。之。入。十九年六月四日。官吉の山中。小。薨。と。あ。ふ。年。い。つ。も。過。世。小。ま。り。似。と。小。や。河。痛。ま。り。事。あり。河。清。も。老。小。至。ら。た。四十歳。少。と。え。せ。と。く。や。河。遺。言。ある。と。の。つ。河。を。骸。せ。都。多。東。山。慈。照。寺。へ。送。り。ま。わ。ら。せ。河。葬。法。と。當。心。の。後。影。將。軍。義。隆。公。と。和。幸。と。家。督。ま。し。む。河。降。京。の。義。と。討。ら。せ。こ。多。と。之。好。威。勢。と。る。と。して。容易。征。伐。と。こ。を。こ。ま。つ。比。叡。の。通。路。ま。り。河。動。産。あり。其。后。畿。内。靜。疆。の。こ。好。と。和。波。と。命。出。さ。る。長。慶。こ。を。と。話。悦。び。天。文。正。年。の。春。正。月。將。軍。降。洛。ま。り。と。る。が。長。慶。ハ。河。内。小。向。一。森。山。小。岳。小。松。永。久。秀。を。執。控。と。し。守。護。ま。し。む。細。川。氏。綱。を。管。領。と。し。右。京。を。又。小。任。せ。ら。る。然。る。に。前。の。管。領。細。川。情。元。が。別。置。田。小。隱。道。と。る。が。内。々。面。不。と。有。あ。る。こ。河。免。と。あ。り。と。上。洛。せ。と。長。慶。関。て。久。小。怒。り。天。文。正。二。年。八。月。初。日。



義晴公邪賊
 不囚められ
 穴生の山中に
 疾病と
 悩ませ
 たまふ



河内松津の國人軍二万余人と率從(系都)攻奪りたり。晴元亦時小將軍を
 守護し、及らせ、丹波を當て、落りり。然るも長慶將軍を恨み、そのつらき逆
 計を勧め、まゝおらせり。同月十二日、河原濱ありしが、長慶猶傍り、其どく
 元を指別、茨川の城におり、こゆまは、細川の威を、こくく、響けり。明るに、其
 二月十二日、河原濱を、義輝と改め、むひ、系都、長慶、小任せらる。長慶も
 常小を、國々、系都の事、い、松、永、彈、正、執、事、を、せ、り。是、小、川、で
 將軍、家、彈、正、久、秀、と、賞、賞、の、刻、り、時、中、(石、出、さ、し、) 河、原、を、加、り、む、久、秀
 今、自、己、を、忘、れ、奸、佞、の、智、の、自、性、を、邪、に、ま、ご、り、し、逆、を、い、ま、し、若、も、誠、を
 陰、謀、を、企、て、好、が、指、揮、と、言、觸、將軍、家、小、對、奉、り、失、禮、不、道、の、事、を
 奉、動、細、川、一、家、の、人、々、を、奴、僕、の、像、に、侮、れ、れ、言、語、道、窮、り、た、れ、ば、晴、元、入、道、
 大、お、憤、怒、し、渠、を、ま、ご、り、こ、好、ま、ら、ず、我、家、の、被、官、り、其、出、頭、を、過、さ、り、

小松永早賤の往昔を、忘るる公方を、能厚むる、高敷土、小松、若き、此を
 速小戒とん、終小國、部を、恨れ、せ、り、め、君、臣、法、道、絶、ぬ、べ、し、と、義、輝、公、を
 勧め、まゝおらせり。永、彈、正、と、謀、せん、と、す。永、彈、正、九、年、九、月、中、河、内、の、軍、勢、を
 借、從、し、將軍、山、の、城、小、入、ら、せ、り、松、永、响、を、奉、り、し、と、を、身、に、こ、し、
 又、軍、を、帥、ひ、白、川、を、細、川、に、館、小、推、進、を、只、一、戦、小、晴、元、を、亦、敗、り、直、地、小、將
 軍、山、へ、馳、朝、ひ、君、を、殺、す、と、ま、い、ら、ん、と、を、長、慶、と、言、ふ、と、こ、は、上、洛、之、を、
 を、制、止、し、軍、を、遣、う、め、こ、好、再、び、出、は、し、て、將、軍、家、部、を、宥、め、ま、お、ら、せ、り、
 然、る、も、松、永、と、河、原、陸、の、事、あり、て、洛、中、好、く、靜、養、り、近、年、長、慶、を、病、小、し、
 他、來、の、事、事、り、知、り、て、攝、關、將、軍、守、義、長、と、り、つ、こ、好、の、は、部、督、と、お、
 せ、り、其、身、難、難、入、道、と、名、を、長、慶、と、呼、ぶ、事、も、義、長、も、父、の、氣、位、を、文、繼、で、
 流、く、あら、ぬ、人、を、ま、ご、り、久、秀、い、ま、く、膝、下、を、輝、き、い、ま、く、ら、ん、小、川、
 隱、謀、成、龍、の、朝、

と見らるるぞ唯義長をまゐりて外小督と三人小督ととを鶴小心中と決
 せ。後會より流石も義長上洛せり。以て水原四郎月次と日守將
 軍家へ出仕しりまはひとらぬ河内賞兵ありて河相傳亮の列小加
 とせらる。山名一色土波六角武田上杉相の領地河内号と賜りて京都小をて
 細川など河内傳亮とせり。命出さる。然る小久秀義長小初めて西水の眞
 政道と執事とせり。將軍のまこと好家へ成せり。先づ
 と設けさせ將軍家と請せしむ。將軍のまこと好家へ成せり。先づ
 是と河相傳亮の列小加と成りせらる。河内河内ありて二月三日の好義
 長自館とてその小傳亮の義慈とて初めおられせり。京法は法度悪く曲水の
 宴小振だるが。その京法は法度悪く曲水の宴小振だるが。その京法は法度悪く曲水の
 る人あり。詩を吟むる輩もあり。發小樂しとて。斯る最中を發小樂し
 とらる。松永弾正とて好義長と稱せんと毒酒を野にとせ

初めて義長と眼帯小言し。同席の諸侯縁め。これを嫌はせ小識るといふ。
 松永が威勢烈しとて。思はせ口を禁むとや。又長慶大少将と。松永が威勢烈しとて。思はせ口を禁むとや。又長慶大少将と。松永が威勢烈しとて。思はせ口を禁むとや。又長慶大少将と。
 都まゝ二時とて。小純登り。是を守護をとりとて。更小守事をせり。非心
 歎小言とて。ありとて。家督といふをたてし。と評候し。とて。弾正久秀。十の民衆
 大捕下。長慶の子左京を義継とせり。お續をまきし。と初む長慶純く
 も。こま小隨ひ。十河が長子義継と。この好の家督とらぬ。流石守小佐と。小
 領代小言と。し。後ひの。松永が權威十倍と。義継力強小
 と。制止と。事あり。心苦く。過ら。水原七多平。月日長慶
 病小狂と。六十之歳と一期。終小帰空あり。是小同く。この好家あり。人
 衆と。好日向守長徳同。野も。及春。長成。主税助。好通達。小松と。執
 事ひ。義継あり。都松永が計ひ。と。人危ま。と。城。心中常

豊臣評二編卷之二十一

十六



豊田詩二編卷之六
 十一



豊田詩二編卷之六
 十二

小石平ありき將軍家を他... 松永が奉止と怒らせ... 江戸目と... 松永と... 好義と... 好松永... 好松永... 好松永... 好松永... 好松永...

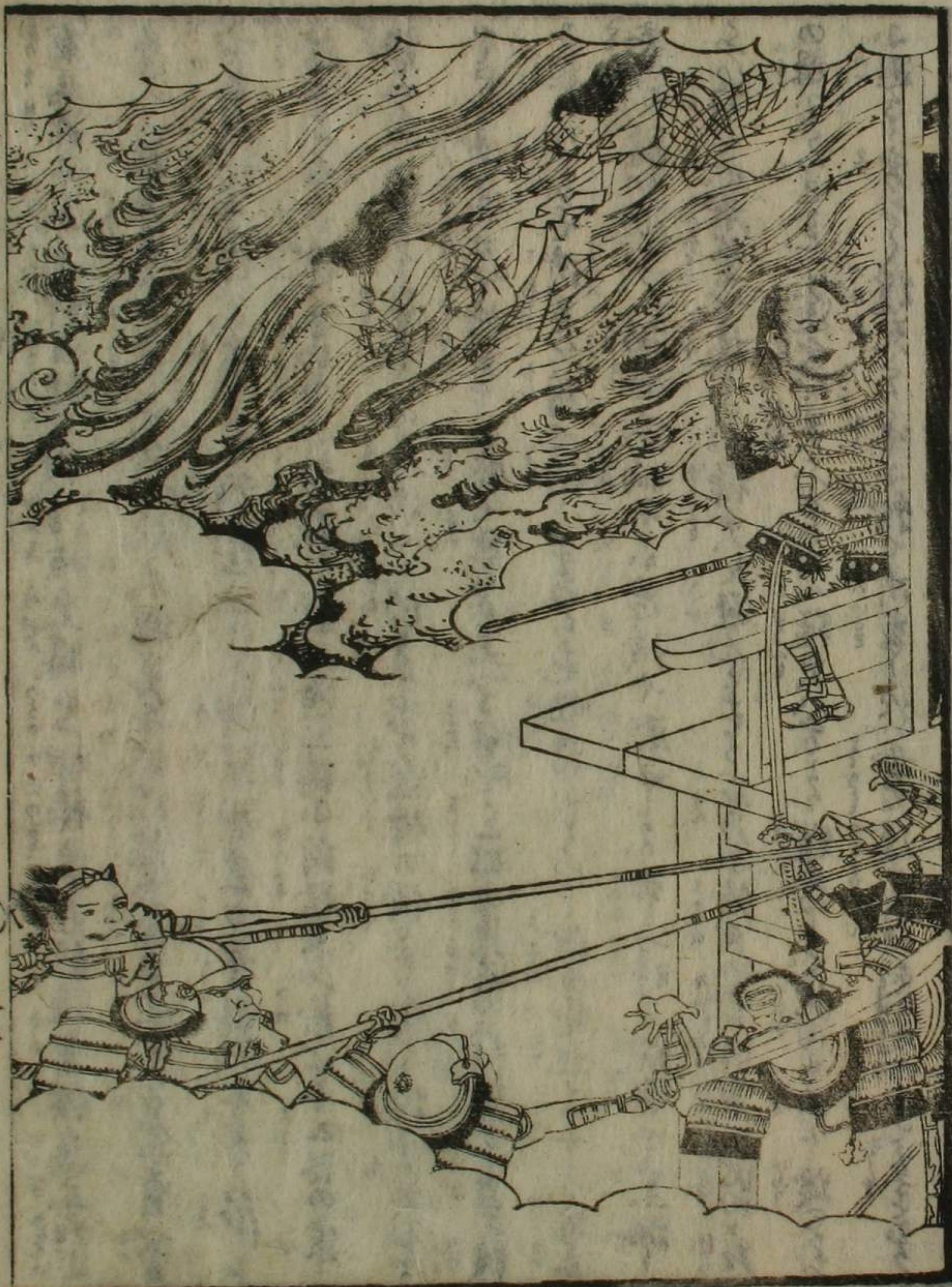
推せんとい録八年五月十九日の... 日向守松永... 九小を陣... 室町の面... 税助... 地... 五月... 松永...

Table with 2 columns: kanji characters and their furigana/romanized equivalents. Includes characters like 松永, 好義, 日向守.

Vertical text on the left margin of the right page.

Small circular mark or character at the bottom left of the right page.

足利家の
運籌の
滅して義輝
公御殿死
の圖





長岡
 藤孝
 專忠
 覺慶
 相佐
 南都一乗院
 落



長岡
 藤孝
 專忠



松永の逆意
こ小強乗
南良の
大佛殿を焼く

の河和義宗のまゝなる来よりと源はかゝりておとしあつて、之好松永の確執小
 て、今また延引せしむとも、致す果だと同年六月、四國と出でて、源路小入りま
 務津（推津）十月の日は、高野富田の邊に寺小者せらまじり。備之人元々、東
 ししむひ義宗より、後五位小叙せられ、翌十年二月八日、勅使番に寺小下
 向ありて、征夷大將軍小任ぜし。六、河波河折多来の望を達し、悦びたる。律
 たる色、則上洛の事ありて、二倍の飯所、不入河あり。はらりて、人元、きりも
 義経と外なる。新將軍、宗小直系とて、成を推すと、言、宗小絶せし。義
 継こそ、を宗よりぬこと、小思ひ、不候の處と、顯、宗小、松永を、と、形、不、と、言、
 後河守より、言、宗小、義継、心、後、と、は、き、六、松永、が、意、小、同、後、と、人、元、
 と、滅、さんと、多、門、の、城、小、宰、后、と、人、元、大、小、ひ、り、然、後、を、義、継、之、秀、一、不、
 滅、と、得、さ、と、一、と、之、新、將軍、と、勅、め、を、お、せ、義、継、之、秀、追、伐、の、河、事、を、と、小、

一併に註
 意の二身お
 りて中のお
 目又六八入
 りて下の
 松永も、
 松永も、
 松永も、
 松永も、
 松永も、
 松永も、

東一奉、永祿十三年十月初旬、大軍と率、往、直地小南都へ推、後、大、佛、殿、に、本
 陣と、して、禎、之、久、秀、岡、者、と、扱、て、軍、池、院、境、と、伺、せ、し、大、佛、殿、小、陣、列、と、し、て、
 て、置、し、る、と、思、ひ、と、本、堂、厨、の、極、下、小、推、黃、熾、礎、と、兼、入、と、同、月、十、日、日、元、
 こ、松、徳、勢、と、率、ひ、て、不、意、小、推、進、背、門、と、攻、め、駿、卓、小、指、揮、と、玉、中、へ、急、攻、と、り、ち
 込、せ、り、し、小、禎、と、兼、備、し、兼、小、火、務、り、八、方、一、時、小、鼓、を、一、と、進、出、し、不、意、と、し、し、
 時、時、小、列、と、大、と、急、進、し、上、小、成、り、小、小、あり、焚、亡、と、り、は、兼、卓、小、指、揮、と、
 意、の、大、宣、又、是、達、後、の、せ、小、燃、焼、せ、し、ま、し、と、成、ぬ、る、事、を、時、も、や、と、り、人、元、へ、は、ひ、
 へ、連、夜、と、り、も、松、永、又、再、び、勢、と、得、く、遠、波、小、と、人、元、と、合、戦、を、畿、内、河、原、
 ら、し、と、農、事、又、高、糧、と、り、干、戈、の、為、小、園、と、り、懸、し、も、め、者、と、り、り、

繪本豊臣勳功記二編卷之六 終

